

地域ケア会議の仕組み

「地域ケア会議」とは、地域で暮らす高齢者が、介護等が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるために、地域の支え合い(ケア)について、みんなで話し合う会議です。

地域ケア会議に参加する人

本人、家族、医療・福祉関係者、地域で暮らす人、地域で働く人など、みんなが参加者です。

地域ケア会議に参加する方へ

気づいたこと、困っていることなど日頃から感じていることをそれぞれの立場からお話してください。

※個人情報については適切に取り扱います。

4つの地域ケア会議

個別ケース

＜主催：地域ケアプラザ＞

気になる人・心配な人について地域住民や医療・介護の専門職等で話し合います。また個別課題から地域課題を見つけていきます。

包括レベル

＜主催：地域ケアプラザ＞

個別ケース地域ケア会議をふまえ、ケアプラザ圏域での地域課題を地域住民や医療・介護の専門職、一般企業等を交えて話し合います。

区レベル

＜主催：区＞

包括レベル地域ケア会議で解決できなかった課題や区全体の課題について話し合います。

市レベル

＜主催：市＞

市内18区の区レベル地域ケア会議で解決できなかった課題や市全体の課題について話し合います。

5つの機能

01

個別課題解決機能

地域で心配な人について、参加者で話し合います。

02

ネットワーク構築機能

地域住民と医療・介護の専門職等が顔の見える関係をつくりまします。

03

地域課題発見機能

地域で困っていることを出し合い、地域全体の課題を見つけます。

04

地域づくり・資源開発機能

地域の課題を話し合い、解決に向けた取組を検討します。

05

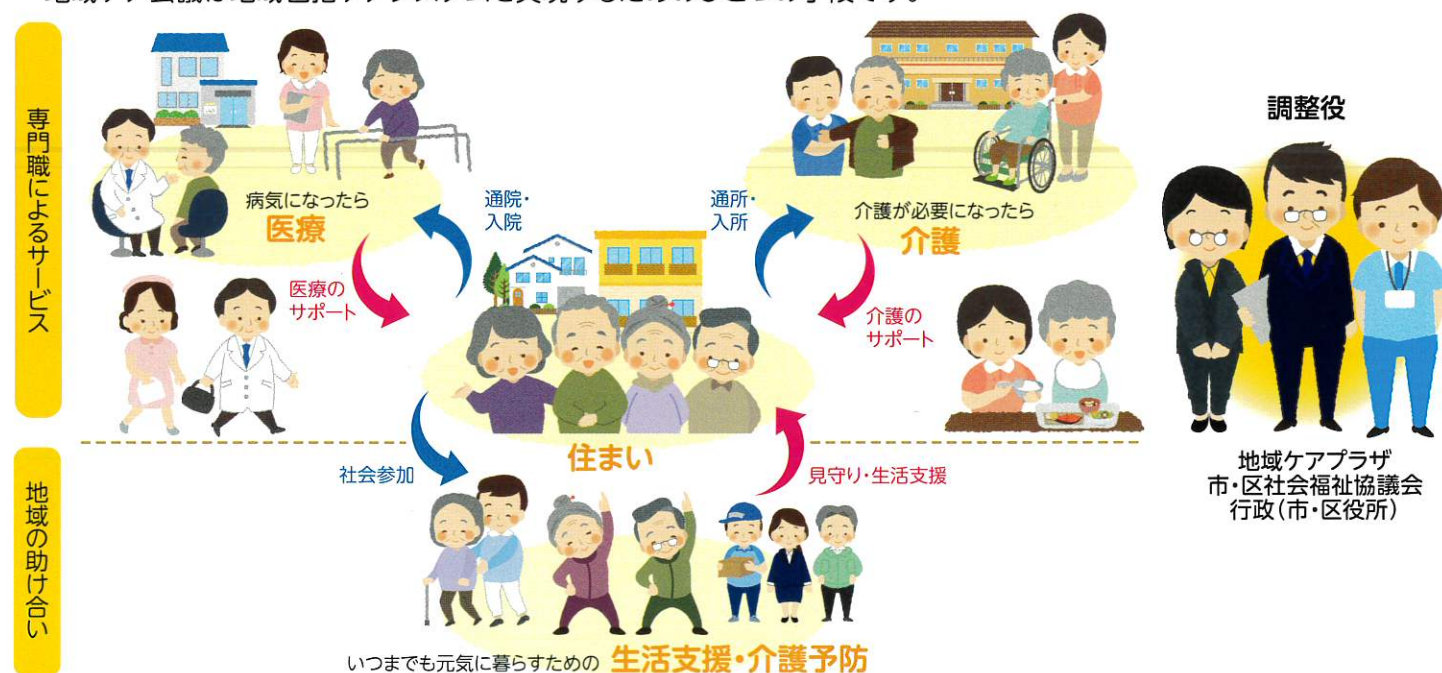
政策形成機能

地域では解決できないことを行政機関等へつなげていきます。

横浜型地域包括ケアシステムとは？

高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも自分らしい暮らしを続けるために、「住まい」を中心に「介護・医療・介護予防・生活支援」が一体的に提供される、包括的な仕組みのことです。横浜市では地域ケアプラザを中心に推進します。

地域ケア会議は地域包括ケアシステムを実現するためのひとつの手段です。



あなたのひとことが地域の未来をつくる

横浜市の地域ケア会議

住み慣れた地域で、いつまでも自分らしい生活を送りたい。
地域ケア会議はその想いをカタチにするための会議です。



横浜市健康福祉局 高齢在宅支援課・地域包括ケア推進課
令和3年7月 発行



太郎さんから見る地域ケア会議



散歩とコーヒーが大好きで、近所のカフェに通うのが日課だった一人暮らしの太郎さん。最近では家で過ごすことが多くなっているようです。

最近忘れっぽくなってきて不安だなあ。カフェにも行きたいのになあ…でも…

太郎さん



ご近所さん

散歩してる姿を見なくなったな

最近よくごみ出しの日を間違えているわ

太郎さんについて地域のみんなからも話が聞きたいわ！「個別ケース地域ケア会議」でみんなで話してみましょう！



地域ケアプラザ職員

1

最近物忘れがひどくて心配で…大好きなコーヒーを飲むことも外出することも、ほとんどなくなってしまいました。



家族

2

個別ケース地域ケア会議(主催:地域ケアプラザ)

【個別ケース地域ケア会議の目的】

- 地域の心配な人や気になる人への支援について話し合う
- 地域の困りごとを把握する ●個人を支える方々の顔の見える関係をつくる

太郎さんができることを見つけましょう。



作業療法士



医師

必要な医療につなげましょう。



民生委員



ごみ出しの日に声をかけてみます。



ケアマネジャー



ご近所さん

サービスが必要か検討しましょう。

包括レベル地域ケア会議(主催:地域ケアプラザ)

【包括レベル地域ケア会議の目的】

- 各個別ケース地域ケア会議で見てきた地域の困りごとや良い取組を共有する
- 困りごとを解決し、良い取組を地域に広げるために話し合う
- 地域を支える方々の顔の見える関係をつくる



3

太郎さんや他の方の個別ケース地域ケア会議から、「地域の困りごと」を整理します



地域ケアプラザ職員



町内会

この地域には、一人暮らしの高齢者が増えていますね。



介護サービス事業所

認知症になっても住民同士が交流できる場があるといいですね。



生活支援コーディネーター

「空き家を地域のために使ってほしい」と言ってくれた方がいましたよ！

地域ケア会議から生まれた取組

●地域で気づく、ひろがる「見守りの輪」

ある集合住宅は、高齢者向きのつくりでなかったため、足腰に不安を感じている高齢者が閉じこもりがちになっていることが分かり「地域ケア会議」を開催しました。

話し合いの結果、集合住宅には支援の必要な人が複数いることが共有され、地域の見守り体制の強化につながりました。

また、住民自身も住環境を踏まえた健康づくりを意識するきっかけとなり、地域の体操教室に参加するようになりました。



●消費者被害から高齢者を守る！「防犯ステッカー」



高齢者を中心に、悪質な訪問販売などの消費者被害が地域で増加していることをきっかけに「地域ケア会議」を開催しました。

地域住民とともに協議を重ね「防犯ステッカー」が生まれました。

悪質な場合は消費生活総合センターや警察に相談する旨を記載したステッカーを玄関に貼り付けたところ、その後セールの件数が減り、被害の防止に効果を発揮しています。

●買物に困っている高齢者を助けたい！地域の声から始まった「移動販売」

路線バスの廃止や地域の商店が閉店し、必要な買物が思うようにできなくなってしまった高齢者が増えたことから「地域ケア会議」を開催しました。

どうしたら高齢者が気軽に買物ができるかを考え、高齢者施設と協力し「移動販売」を行うことにしました。移動販売のチラシを町内会の掲示板に貼るなどして、地域全体で協力しながら取組を盛り上げ、今では訪れた高齢者や地域住民の「コミュニケーションの場」として喜ばれています。

